



若草もゆる

一生徒・保護者、地域の方々への広報誌ー

令和5年9月1日

「団結」「表現」ー2学期始業式々辞よりー

33日間の夏休みが終わりました。夏休みに入る前に、私はみなさんに、「夏休みは『自分』という車を走らせる期間です。『アクセル』『ブレーキ』『ハンドル』を巧みに使い、充実した夏休みを送りましょう」と呼びかけました。自分という車を上手に運転できましたか。夏休みの運転の様子を是非先生方にも聞かせてください。

さて、みなさんは野菜をよく食べますか。焼いてよし、炒めてよし、煮込んでよし、漬けてよし、生でもよしの野菜は、料理の主役にも脇役にもなります。しかも、旬の野菜であればその味は格別です。おまけに、その旬の野菜が自分で育てたものであったら、毎日食卓に並んでも食傷など感じる余地はないでしょう。

実は、1学期に5組のみなさんが夏野菜作りに取り組みました。畑を作り土を盛り、苗を植え、水遣りや雑草取りを繰り返し、6月から7月にかけて夏野菜を収穫しました。茄子やピーマン、ミニトマトなど、収穫された野菜はそれはそれは立派なものでした。



さあ、今日から2学期、「団結」「表現」のステージのスタートです。収穫すべきもの、それは、大榎祭合唱コンクールを創り上げる中で得る「最高の思い出」です。収穫物は野菜ではありませんが、収穫に向け大切なことは、5組のみなさんが教えてくれています。

それは、苗を支える土壌作りと、苗の成長を促すための世話と見届けです。5組のみなさんが、結実収穫を実現したのも、役割分担をきちんと決め、計画に沿って畑に足を運んだ外ありません。

収穫物は、冬場の朝日のようなものです。冬場の朝日は、山の稜線の向こうにしっかりとスタンバイしているのに中々すぐには顔を出してはくれません。収穫物も、みなさんの教室に、みなさんの手のひらの上に姿を現す準備をしていますが、簡単には成果としてそれを確認することはできません。時間を要するのです。だからこそ、目標を定めたら、計画どおり地道に事を進めていくのです。この取組を一人で進めるではありません。「団結」「表現」のステージは、学級の仲間と共に手を取り合い取り組むステージです。級友とたくさん会話をしながら、成長（生長）過程を確認し、収穫へとつなげてほしいと思います。（後略）

【校長 橋村英明】